

普及啓発・人材育成推進方策検討ワーキンググループ
第8回会合 議事要旨 (案)

1 日時

平成24年10月23日(火) 17:00～18:00

2 場所

内閣府別館9階会議室

3 出席者(敬称略)

(主査)	小泉 力一	尚美学園大学大学院教授
(委員)	青田 哲	日本電信電話株式会社
	荒木 浩一	株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ
	伊藤 求	ニフティ株式会社
	井上 健一	日本放送協会
	井上 真由美	株式会社ミクシィ
	尾花 紀子	ネット教育アナリスト
	勝村 幸博	株式会社日経BP社
	川上 隆	学校法人岩崎学園
	小屋 晋吾	トレンドマイクロ株式会社
	近藤 則子	老テク研究会
	佐竹 正範	ヤフー株式会社
	清水 啓一朗	ソフトバンクモバイル株式会社
	下村 正洋	株式会社ディアイティ
	杉浦 昌	日本電気株式会社
	高橋 正和	日本マイクロソフト株式会社
	千原 啓	グリー株式会社
	藤本 浩司	株式会社電通
	前田 典彦	株式会社カスペルスキー
	武笠 貴史	KDDI 株式会社
	吉田 正彦	一般財団法人マルチメディア振興センター
(事務局)	占部 浩一郎	内閣審議官
	泉 宏哉	内閣参事官
	近藤 玲子	企画調整官
	田平 有紀子	参事官補佐
	吉田 弘毅	参事官補佐

4 資料

資料1 普及啓発・人材育成推進方策検討ワーキンググループ第7回会合
議事要旨 (案)

資料2 平成24年度情報セキュリティ月間における取組予定事項

資料3 情報セキュリティ国際キャンペーンの実施

資料4 今後のスケジュール

参考資料 普及啓発・人材育成推進方策検討ワーキンググループ委員名簿

5 議事概要

(1) 平成24年度情報セキュリティ月間における取組事項の提案及び意見交換

事務局より資料2に沿って説明し、委員による意見交換が行われた。委員等からは以下のような意見が述べられた。

【重点テーマのメッセージについて】

- 「アプリは信頼できるサイトから」のように何をすればよいかという具体的な対策方法がメッセージに含まれていることが望ましい。
- 企業向けについては、マネジメント層や社員層等、誰に向けてメッセージを出すかでトーンが変わる。また、例えばメールの誤送信対策等、具体的なアクションが入っているとより伝わりやすいと思う。
- 「情報漏えい対策の第一歩、アプリは信頼できるサイトから」の「情報漏えい」という言葉は、個人向けには何のための対策なのかピンとこないのではないかと思うので、改善できるとよい。
- 今年だったら「気を付けよう遠隔操作」が効くのではないか。セキュリティの話がこれだけ長い間取り上げられるのはあまり見たことがなく、今まで見落としていたヒントがあるかと思う。
- 遠隔操作の話題は旬なのでうまく利用したほうがよいとは思いますが、重点テーマであるスマートフォンのセキュリティ対策と絡めてしまうと、本当にスマホを遠隔操作するウイルスが流行しているのではないかと、余計に怖がらせてしまうことが懸念される。
- 今年は「ウイルス」という言葉にピンときてもらえる気がする。例えば「アプリは信頼できるサイトから。ウイルス対策も忘れずに」はどうか。そのウイルス対策が具体的に何かというのは、携帯電話会社に聞くとか、ネットで調べるとか、次の一步に導ければよい。
- 企業向けのターゲットを、マネジメント層とするかそれ以外にするかという点については、どちらかというとな数の多いほうが重要という気がする。その場合、メールや標的型攻撃等、具体的な表現が大事だと思う。
- 「他山の石にしないセキュリティ事故」や「事故報道はレビューの機会」とか「見直しの機会」とか、実際に起きている事故を自社の問題として考えてみようというメッセージがあってもよい。今の企業向けの案は概念的すぎる感じがする。
- 語呂でいうと「守ろう情報、防ごう漏えい」はよいが、具体的にどうすると言っていないところがマイナス。情報漏えいについては、様々な攻撃だけでなく過失も考えられ、それも含めると一つのメッセージでは難しい気がする。

- 分野を絞って、具体的にやってはいけないこと、やるべきことをメッセージに盛り込んだほうがよい。例えば標的型攻撃やメールのセキュリティに焦点を当てるなら「そのメール本物ですか」や「そのメール本当に大丈夫なの?」、情報の持ち出しなら「その情報、本当にコピーしていいの」や「社外に持ち出しても大丈夫?」のように、割り切ったメッセージとしてはどうか。
- 2月の月間を例えば「セキュリティ総点検」といったムーブメントにして、スマホなら設定を見直すとか、企業なら社員研修をやるとか、そのような行動を促すメッセージとしたほうがよいのではないか。「アプリは信頼できるサイトから」だけでなく、ウイルス対策も設定も使い方もきちんとやってほしいということを考えると、「この月間でやろう」というのがよいような意識を持っている。また、企業向けに関しては、脅し文句でもいいからマネジメント層に向かってメッセージを出すべきだと思う。
- 本日出たご意見を事務局で整理して、皆様にメールで再提案する。提案後、一週間くらいをめでにお返事をいただければと思う。

【取組予定事項について】

- マルチメディア振興センターでは、小中高校生、教職員、PTA 向けに e-ネットキャラバンというネットの安心安全についての講座をやっている。ぜひセキュリティ月間に協力する形でやらせていただければと思う。
- 国際月間に関して、DHS から LOVE PC に問い合わせがきた。今月中になんらかの活動をやろうとしている。情報セキュリティ月間に向けては、LOVE PC の活動も含め、同じような業界のメンバーで進めようとしている。
- 早めにどういった分析をしていくかを決めておいた方がよいのではないかな。どれくらい浸透したのかが見えるような成果指標を考えておいたほうがよい。
- 一方的に情報発信するのではなく、Twitter との同時進行など、見てくださっている方たちからの意見を酌めるような仕組みでやってみると、リアルな感触がつかめるのではないかなと思う。
- 映像によるインパクトは大きいと思う。何を発信するかが重要ではあるが、YouTube やニコニコ動画で、映像にセキュリティ月間のクレジットを入れてもらい、「なにこれ?」から始まって「こういうのがあるんだ」という形で広まるスキームもあると思う。
- 今後は雑誌社と新聞社から頼まれている原稿の中で取り組んでいきたい。また、シニア向けのセキュリティわらべ歌というものを初音ミクで作って、YouTube で現在公開している。
- 「国民を守る情報セキュリティサイトの毎日更新」については、できれば事前に計画が分かるとよい。例えば、ある日の更新内容はパスワードについてだと分かれば、それをブレイクダウンした情報を用意しておいて同じ日に出すなどの連動企画ができると思う。
- セキュリティ川柳については、委員の社内等から募るのもあるとは思いますが、一般募集したときには応募に対する何かを考えなくてはならない。それも含め

て現実的な企画を立ててもらいたい。企画が固まったら早めに言って素材を用意してもらおうのが賢明だと思う。

- (2) 情報セキュリティ国際キャンペーンの実施について
事務局より資料3に沿って説明。
- (3) 今後のスケジュールについて
事務局より資料4に沿って説明。

－ 以 上 －